

## 歯科用小照射野 X 線 CT (3DX<sup>®</sup>) 画像診断： 根尖病変の治療方針決定に 3DX<sup>®</sup>が有用であった 1 例

内田 啓一<sup>1)</sup>, 前田 美樹<sup>2)</sup>, 黒岩 博子<sup>1)</sup>  
山田 博仁<sup>2)</sup>, 杉野 紀幸<sup>1)</sup>, 塩島 勝<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>松本歯科大学 歯科放射線学講座

<sup>2)</sup>松本歯科大学 歯科保存学第二講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT (3DX<sup>®</sup>)

A case of an apical lesion in which 3DX<sup>®</sup> was useful in determination of treatment plan

KEIICHI UCHIDA<sup>1)</sup>, MIKI MAEDA<sup>2)</sup>, HIROKO KUROIWA<sup>1)</sup>,  
HIROHITO YAMADA<sup>2)</sup>, NORIYUKI SUGINO<sup>1)</sup> and MASARU SHIOJIMA<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

<sup>2)</sup>Department of Endodontics and Operative Dentistry, School of Dentistry,  
Matsumoto Dental University

歯科用小照射野 X 線 CT (以下 3DX<sup>®</sup>とする) は、根尖病変の範囲、根分岐部病変の診断や根管形態とその走行あるいは根管治療後の経過観察などに非常に有用である。また 3 方向から同時に画像観察ができることから、とくに顎骨内に限局した病変の診断には大変有効である。今回われわれは、根尖病変の治療方針決定に 3DX<sup>®</sup>が有用であった 1 例を経験したので報告する。

患者は 46 歳の男性。上顎右側臼歯部の頬側歯肉の腫脹を認めるも、疼痛がないため放置していたという。その後、同部の頬側歯肉の腫脹が増大してきたので本学を精査希望にて 2007 年 1 月 10 日受診した。受診時、上顎右側第一、二小白歯および第一大臼歯部の頬側歯肉の腫脹と瘻孔を認めた。受診時のパノラマエックス線写真では (写真 1)、上顎右側第二大臼歯部において不十分な根管充填が認められ、その根尖部にはエックス線透過像が認められた。しかし、その病変の範囲や骨

吸収の状態の把握は困難であった。根尖病変の詳細な状態を観察するために 3DX<sup>®</sup>を行った。その画像では、上顎右側第二大臼歯の近心頬側根から遠心頬側根部において顕著な骨吸収像を認めた (写真 2)。また遠心頬側根舌側皮質骨の吸収と根分岐部病変も認められた (写真 3)。

歯内療法において口内法エックス線写真やパノラマエックス線写真は重要な検査項目のひとつであることはいうまでもないが、こうした複根歯における難治性の根尖病変では根尖部の状態や骨吸収の状態を正確に観察することや根尖病変の原因根管を特定することが比較的困難なことが多い<sup>1)</sup>。そのため十分な感染根管処置を行っても経過が長期化し、患者にも負担がかかることがある。

今回の症例では、3DX<sup>®</sup>による検査を行ったことから、主治医が早期に根尖病変や骨吸収の状態を診断することができ、的確な治療方針決定や患

者への説明に役立った1例であった。

文 献

- 1) 中田和彦, 泉 雅浩, 岩間彰宏, 内藤宗孝, 稲本

京子, 有地榮一郎, 中村 洋 (2004) 歯科用 CT の歯内療法領域における有用性-第2報複根歯の各根ごとの根尖病変の画像診断-, 日歯保存誌 47: 608-15.

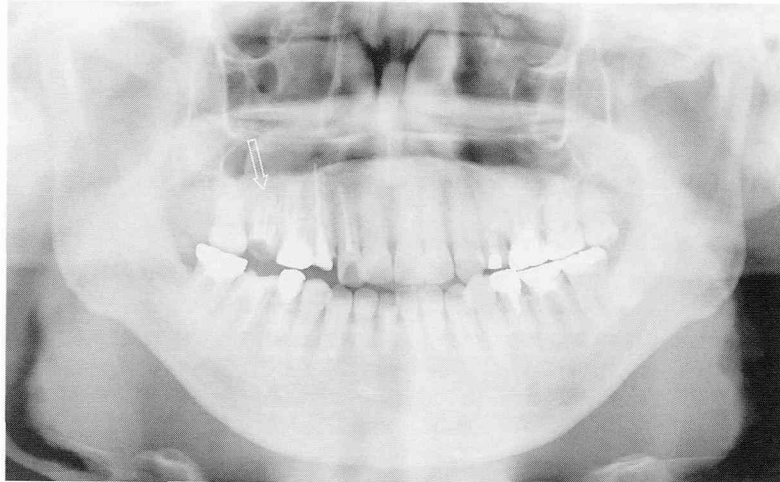


写真1: パノラマエックス線写真では, 上顎右側第二大臼歯部において不十分な根管充填とその根尖部にはエックス線透過像が認められる (矢印). 右側上顎洞内部には類円形の均一な不透過像を認める.

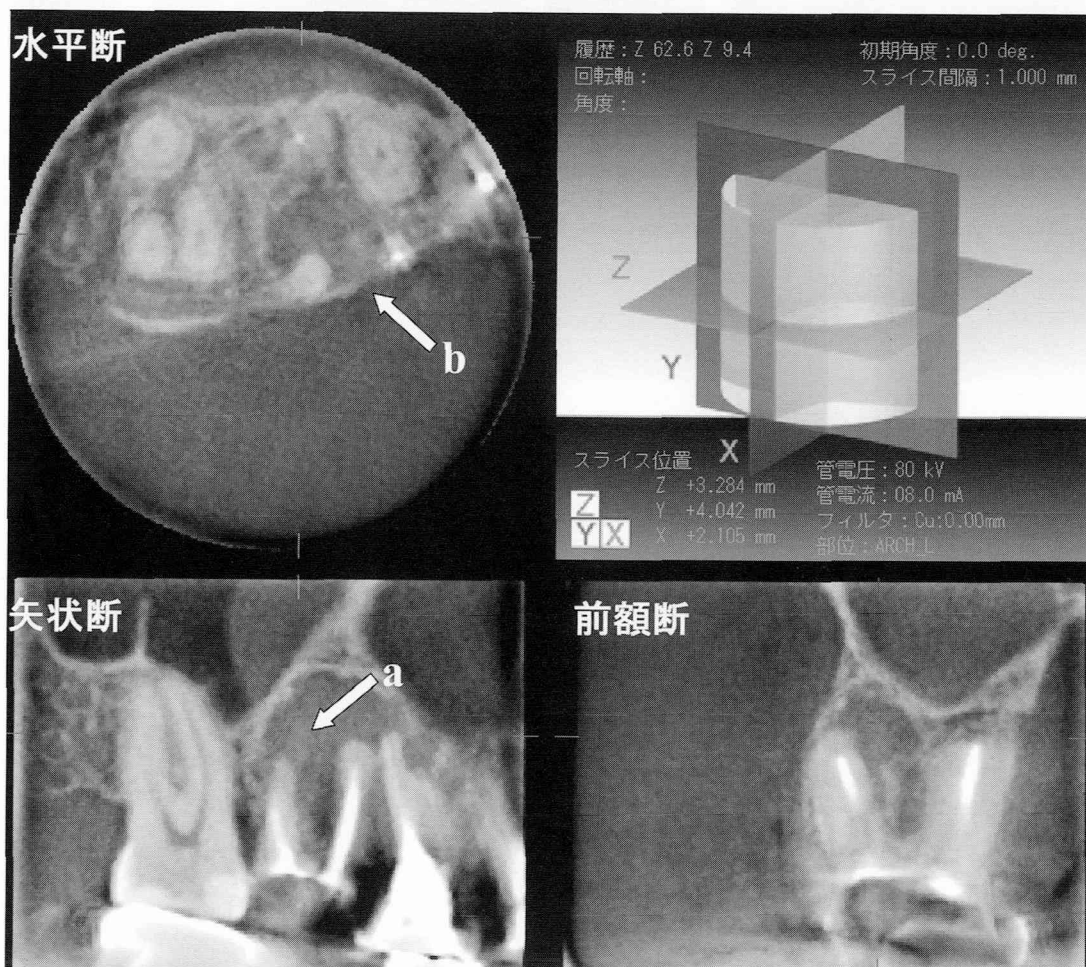


写真2: 3DX®矢状断面画像 (矢印 a) において, 上顎右側第二大臼歯の近心頬側根から遠心頬側根部において顕著な骨吸収像を認める. 水平断面画像 (矢印 b) では頬側皮質骨の菲薄化を認める.

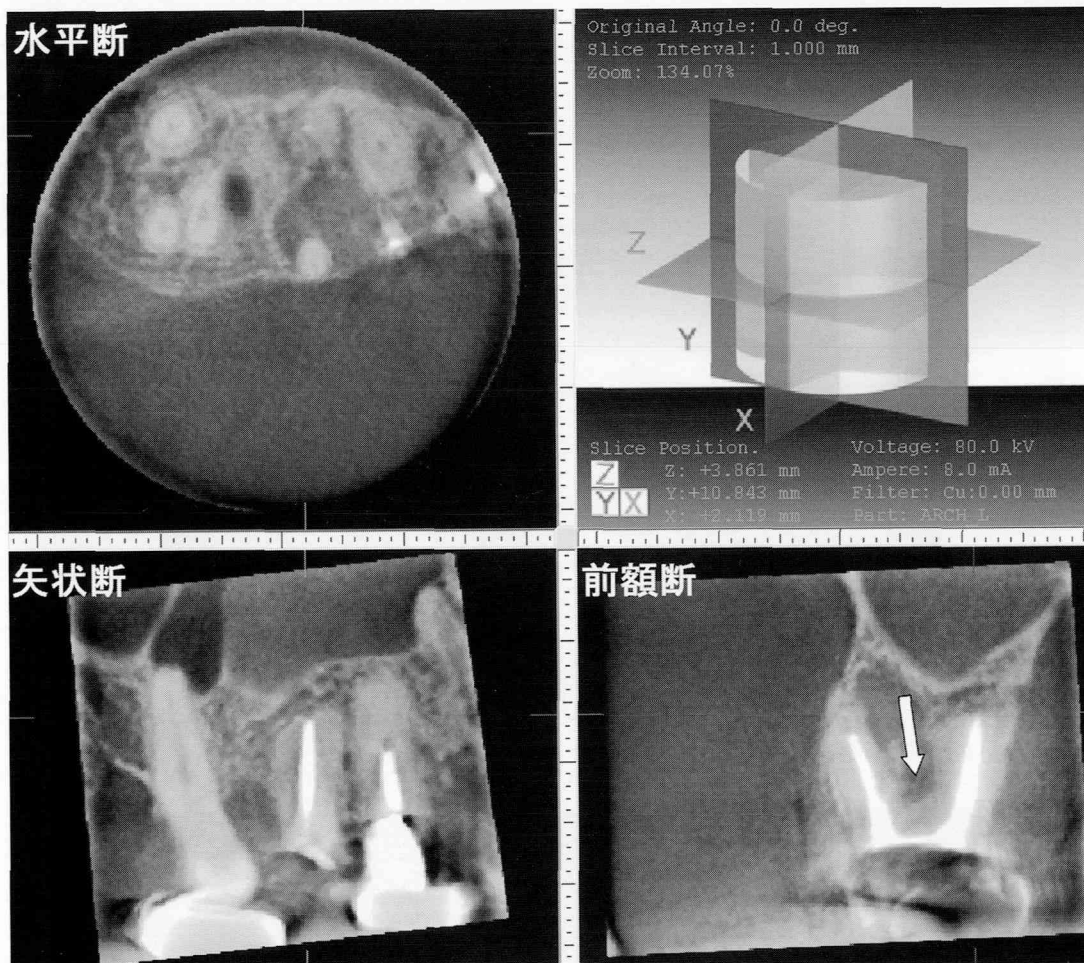


写真 2: 3DX<sup>®</sup> 矢状断面画像 (矢印 a) において, 上顎右側第二大臼歯の近心頬側根から遠心頬側根部において顕著な骨吸収像を認める. 水平断面画像 (矢印 b) では頬側皮質骨の菲薄化を認める.